

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

元俳優の根津甚八さんが静かに息を引き取ったのは2016年12月29日のことでした。年末のあわただしさの中で、この訃報を知らずに一年過ぎた人も多くいるのではないのでしょうか。

事務所の発表によれば、死因は深部静脈血栓症および肺塞栓症に続く肺炎。また69歳でした。実は、その6年前に芸能界を静かに引退していたのです。

根津さんは1969年、唐十郎氏が率いる「状況劇場」に所属。70年代に入ると、『影武者』や『乱』といった黒澤作品や、ヤクザ映画で重要な役どころを演じるようになりま

33 根津甚八

長尾和宏（ながお・かずひろ）
医学博士。東大第2内科。1995年、大阪府立大で長尾クリニックを開業。外来診療で「人を診る」総合診療を目指す。近著「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

した。相手を射るような目線、陰ある二枚目なりに、女性たちはくぎ付けになりました。いえ、男から見ても本当にカッコよくて渋い役者さんでした。

しかし、2001年ごろに右目の下直筋肥大という病魔に襲われます。眼を動かす筋肉の異常です。目の周囲の筋肉が肥大することで、視神経が圧迫され、視力低下、視野障害などが



起こります。甲状腺疾患から、この病気を発症する人が多いようです。

根津さんの場合は、ものが二重に見える複視という症状に悩まされていたようです。眼球突出など顔つきも変わってくるため、俳優さんにとっては、とても重大な病といえるでしょう。

根津さんは、手術を6回繰り返しましたが、思うように顔つきが回復しなかったという情報もあります。役者の命である顔が思うように動かないのはどれほど苦しいことだったのでしょうか。次第にうつ症状に悩まされます。

なんとか持ち直してきた04年にマイカーを運転中に死亡事故を起こします。視力低下が関係していたかどうかは不明ですが、このとき心に負った傷が、役者復帰を絶望的にさせたのは間違いないようです。

一つの病気がきっかけで、ミノ倒しのように病や悲劇が重なり、人生が暗転していく人は少なくありません。

根津さんはとても繊細で寡黙な人だったといえますから、苦しみを言葉にできず、暗いトネルのような晩年を過ごしたのかもかもしれません。

もし、信頼できるかかりつけ医がそばにいたら、その痛みを軽くできたのではないか。病氣からくる、あらゆる悩みを受け止める存在こそが、かかりつけ医なのです。

その後も体調は戻らず、引退から6年後、奥様と拓子さんに見守られながらの旅立ちでした。でも孤独死でなくて、良かった。

芸名は真田十勇士からつけられました。真田の根津甚八は、大坂夏の陣で壮絶な死を遂げています。人生の「夏」の時代に力強く咲き切って、人よりも早く花を終わらせず。孤高のヒマワリのような男の生きようです。

悲劇重ねた一つの病魔